

令和4年度 自己評価計画書における中間報告

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月集計結果	分析と課題	備考(時期・対象)
1 分かる授業の実践と家庭学習時間確保 GIGAスクール構想の一人一台端末を活用し、生徒の学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図り、進路実現につなげる。	① 授業や朝学習等において、ChromeBookやiPad等を用いて、Google for Education等の機能を効果的に活用し、家庭学習のあり方を再構築し、基礎学力を向上させる。生徒の個別最適な学びを踏まえ、協働的な学びを追求する。その結果進学、就職といった進路の実現につなげる。	【満足度指標】 授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。	「Chromebook等を効果的に活用した授業や朝学習は、あなたの学習意欲を高めることができた。」と回答する生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (86.5%)	1人1台端末が実現し、生徒は放課後も含め、自由にタブレット端末で自学に励むことができてきている。さらに、朝のタイピング練習や内灘ベーシックを通じて、個に応じた学習が実現し、生徒が意欲的に取り組む様子が見られる。	授業アンケート (7月、12月/生徒対象)
	②	【満足度指標】 学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。	「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (91.2%)	各教員が創意工夫をして授業を行っている。今後も、ねらいや見通しを提示した上で、わかりやすい授業を展開できるようにしていく。また、端末を利用した授業実践もすすめていく。	授業アンケート (7月、12月/生徒対象)
	③	【成果指標】 生徒がオンライン学習を含めて1日1時間以上の家庭学習時間を確保している。	「オンライン学習を含めた家庭学習時間が1日平均1時間以上」と回答する生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	D評価 (34.2%)	昨年度より「まあまああてはまる」の生徒の割合が3%ほど増え、少しずつではあるが家庭学習に取り組むようになってきている。ICT端末の持ち帰りも手続きの上許可しており、端末を用いた課題研究や宿題を準備してさらに改善を図っていきたい。	Classi学習時間集計 (随時/生徒対象)
	④	【努力指標】 生徒個々の学習状況の把握や学力定着を図るために適切な質・量の課題を課することができる。	「生徒個々の学習状況を把握し、学力定着を図る課題を課している」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C評価 (63.7%)	生徒の状況に応じた課題提示や学習習慣向上につながる日々の課題設定や小テストの実施に苦心している状況である。ICT端末の持ち帰りも手続きの上許可しており、端末を用いた課題研究や宿題を準備してさらに改善を図っていきたい。	学校評価アンケート (7月、12月/教員対象)
	⑤	【成果指標】 進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未定者を抑制する。	「進路未定者の割合を1年は10%以下、2年は5%以下とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	C評価	2年生は46名のうち、進路希望未定者は5名(11%)である。1年生は51名のうち24名(47%)である。進路行事や探究活動から自らの進路を自分事として自覚させ、先を見越した指導をしていきたい。	進路志望調査 (5月、9月、1月/生徒対象)
	⑥	【成果指標】 個に応じた進路指導を行い、4年制大学進学者5名以上、就職希望者の就職決定率100%を達成する。	「4年制大学進学者5名以上、就職希望者の就職決定率100%とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	-	(年度末に提示する) 現在、4年制大学進学者希望は9名、就職希望は17名である。就職希望者の中にはやりがいを感ずる職業がわからないという生徒がいて、その支援が課題である。	進路実績

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月集計結果	分析と課題	備考(時期・対象)
2 挨拶や人間関係づくりなどに留意した生徒指導と教育相談の実践 生徒の基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高めるとともに、18歳成人に向けて、自分の個性や適性を考え、自分の将来を決定する力を育む。	① 普段の挨拶や学校での人間関係の構築に向け、具体的な態度を掲げることで生徒指導の指針とする。また学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、望ましい人間関係を構築する。	【満足度指標】 生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。	「学校はいじめに対しての取組や指導をしっかり行っている」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%~89% C 70%~79% D 70%未満	B 評価 (81.3%)	担任を中心に教員間のアンテナをしっかりと立てて、情報交換等しっかり行えた結果であると考え。当てはまらないと回答した生徒については、どのような点が不満なのかリサーチしていきたい。	学校評価アンケート (7月、12月/生徒対象)
	②	【努力指標】 家庭において、スマートフォン等の使用ルールを決め、ルールが守られている。	「家庭において、スマートフォン等の使用ルールが守られている」と回答する保護者の割合が A 60%以上 B 50%~59% C 40%~49% D 40%未満	C 評価 (49.0%)	昨年度の37.3%より12ポイント程度向上した。学校から家庭には、誹謗中傷、犯罪サイトからの防衛等、加害者や被害者にならないようにするための家庭でのスマホ指導の協力をお願いし、使用ルールの設定に協力していただく。	学校評価アンケート (7月、12月/保護者対象)
	③	【努力指標】 課題探究を将来につなげるテーマとしてとらえている。	課題探究について「自分の将来につなげるテーマを考えた」とする生徒の割合が A 70%以上 B 60%~69% C 50%~59% D 50%未満	-	(年度末に提示する)	学校評価アンケート (12月/生徒対象)
	④	【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったという満足度が一層向上している。	「本校に進学して(させて)良かった」と回答する生徒・保護者の割合が A 80%以上 B 70%~79% C 60%~69% D 60%未満	A 評価 (94.3%)	生徒一人ひとりに寄り添いながら生徒の自己肯定感や自己有用感を高める指導を行っていることが反映されているものと思われる。長期欠席者が若干名いることを踏まえると、目的意識をもって高校生活を送ることが求められる。	学校評価アンケート (7月、12月/生徒・保護者対象)
3 外部との連携と社会参画意識の醸成 同窓会や地域との連携や情報発信に努め、地域から信頼され必要とされる学校を目指す。	① 積極的な情報の発信と収集に努め、進学や就職した卒業生や地域の教育資源等を利活用して、生徒の社会参画意識を高める。	【努力目標】 同窓会や地域との連携に基づくイベントや行事を通して、生徒が地域に目を向け、社会参画意識を高める。	「同窓会や地域との連携を実感した」と回答する生徒の割合が A 70%以上 B 60%~69% C 50%~59% D 50%未満	A 評価 (82.9%)	就職模擬面接や社会人講話等で同窓生にご協力いただき、またチャレンジ活動では多くの地域の方々とのコミュニケーションを取りながら、普段体験できないことを楽しく学ぶことができた。	学校評価アンケート (7月、12月/生徒対象)
	②	【努力指標】 ホームページの一層の充実等により学校の取組についての情報発信を行う。	「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者の割合が A 80%以上 B 70%~79% C 60%~69% D 60%未満	A 評価 (95.2%)	学校の取り組みについてホームページ・内灘高だより・学年だより等により情報発信している。本校を地域に広く理解していただくために今後も引き続き学校の取り組みについて、タイムリーに情報発信していく必要がある。	学校評価アンケート (7月、12月/保護者対象)
4 教職員の多忙化改善 時間管理を意識し、業務分担と協力体制により、業務の効率化を図る。	① 教員自らが働き方を見直し、担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につなげる。	【成果指標】 各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。	「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員の割合が A 70%以上 B 60%~69% C 50%~59% D 50%未満	A 評価 (91.0%)	肯定的な回答をした教職員の割合が非常に高く、各自が効率よく業務の分担を図り、時間外勤務の縮減に努めていることが伺える。今後もICTを活用するなど工夫して、業務の効率化に努めていきたい。	学校評価アンケート (7月、12月/教員対象)
	②	【努力指標】 各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。	「業務の割り振りや効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任の割合が A 70%以上 B 60%~69% C 50%~59% D 50%未満	A 評価 (100%)	課や学年など、どの分掌も業務の割り振りができていることが伺える。常に情報交換を欠かさず、生徒の立場を考えたうえで行事の精選に取り組んでいる結果である。今後もICTを活用するなど工夫して、業務の効率化に努めていきたい。	学校評価アンケート (7月、12月/主任教員対象)